

# こども分科会について

## 1 設立趣旨

こども…育ちづらさ }  
親 …育てづらさ } 子育てしやすい環境=誰もが住みやすい町づくり

子育て…相談(核となる場)と地域づくり(つながりをつくる)が必要

## 2 1年間の取り組み

<令和元年8月～令和2年7月までの取り組み>

回数	月日	内 容
第1回	R1.8.22	輪をつくろう荒木校区/支えあい推進会議について/キラリマルシェについて
第2回	R1.9.17	家庭こども相談課との情報交換
第3回	R1.11.28	地域づくりについて/学校教育課や放課後ネットとの話し合いについて/参加者の皆様が課題として感じていること
第4回	R1.12.27	放課後ネット定例会への参加報告/学校教育課SSWの業務内容について・事例紹介/その他情報共有・課題の確認
第5回	R2.1.14	輪をつくろう荒木校区マップづくりの進捗状況/荒木校区支えあい推進会議の概要説明/今後の活動について

※令和2年12月20日 放課後ネット定例会に参加

※令和2年3月分科会からはコロナウイルス感染予防のため未開催

## 3 課題

- ・障害福祉という枠にとらわれない取り組みであるため、直接的な課題解決が視覚化しにくい
- ・分科会活動の広がりや啓発の仕方
- ・障害のあるなしに関わらず、地域社会で支え合うコミュニティの形成をいかに実現するか
- ・教育、医療、福祉、地域のシステム作り
- ・障害のある子をもつ保護者の支援

### 【災害時・コロナ禍において】

(1) 災害時・コロナ禍においては、既存の社会資源だけでは対応ができないことも多い。避難が必要な時など、障害の特性に応じて適切な配慮を

行うためには、その方のことをよく知るキーパーソンを地域社会の中で作っておくことが望まれるが、個人情報の問題もあり事前の把握が難しい。

(2) 避難所に避難しやすい環境整備。避難したくてもできない方、その理由などの実態の把握及び環境改善をどのようにして構築するか

(3) コロナ禍における障害児を取り巻く課題の抽出

## 4 事業計画

<令和2年8月以降の取り組み>

(1) 開催頻度…年5回

(2) 取り組み内容

### ①地域ケース会議の開催

ア. 災害時やコロナ禍での学校、地域での生活上の課題やその支援策について、事例を通して地域の方々と話し合う機会をもつ

イ. 既存の制度やサービスだけではない地域の互助力やつながりに気づき、安心して地域で生活できるしかけづくりのきっかけとする

今年度においては新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、様々な分野において影響を及ぼしているが、障害児を取り巻く環境においても、新たな生活様式が広まる中で、障害の特性によっては苦手な変化の連続もあり、障害児のみならず、そのご家族、学校などの関係者にとっても様々な課題が浮き彫りになると予想される。

上記を実施する上では、今までの関わりだけでなく、新しい視点を持ち、広く地域における支え合いの仕組みづくりが必要と思われるため、校区コミュニティや民生委員、社会福祉協議会や教育機関、地域学校協議会との連携などをすすめていければと思う。